



岐阜県障がい者芸術文化支援センター 令和2年度事業報告書

TASC-GIFU REPORT



ごあいさつ

私たち岐阜県教育文化財団は、平成27年9月にぎふ清流文化プラザを再開するにあたり、「障がい者の芸術文化の拠点」とのコンセプトを付加して県民文化及び地域文化の振興を推進するとともに、国の障害者芸術文化活動普及支援事業を担うため、平成30年7月に「岐阜県障がい者芸術文化支援センター(通称:TASC^{タスク}ぎふ)」を設置して、障がいのある人を支える人とともに、アートの力を活用して、社会とまじわる場をつくり、障がいのある人の表現と社会参加の可能性を広げることを目指して取り組んでまいりました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により日常生活が一変し、人との交流が阻まれ、各地の文化イベントが中止するなど閉塞感が漂う中でのスタートでしたが、4月下旬から動画配信、WEB展覧会、メール等による作品募集、WEB会議アプリを活用したオープンアトリエやワークショップなど新たな事業を次々と企画して開催いたしました。また全国障害者芸術・文化祭みやぎ大会のサテライト事業として開催した「いろんなみんなの展覧会」、プラザ内のギャラリーや遠隔地で開催した展覧会や講演会、県内金融機関との新たな協定締結による現金封筒での作品掲載などを通じて、県全域の多くの方々に障がいのある人の芸術活動に関心を持っていただくことができました。これらの事業の企画運営に多大なるご協力をいただきましたアートサポーターの皆さんには、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

岐阜県教育文化財団・TASCぎふでは、障がいのある人の芸術文化活動の支援を通じて、性別、年齢や障がいの有無を超えた多様性のある文化活動にひとりでも多くご参加いただけますよう、これからも励んでまいりますので、今後ともご協力の程をお願い申し上げます。

公益財団法人 岐阜県教育文化財団 理事長 高木 敏彦



岐阜県障がい者芸術文化支援センター 令和2年度事業報告書

TASC-GIFU REPORT

03-04

TASC ぎふについて

05-06

コロナ禍における緊急事業

07-08

オープンアトリエと
ワークショップ

09-13

障がい者とアートに関わる研修
tomoni アートサポーター

14-20

TASC ぎふコラボ展 vol.6
そうぞうのパッケージ

21-22

いろんなみんなの展覧会
種を、まく。

23-24

私のってん！

25-29

[ぎふ清流文化プラザでの展覧会]

オープンアトリエ作品展

妖怪アマビエ降臨展

はびりすプレゼンツ オンライン × オフライン
みんなでつなぐ WA ?

第6回 tomoni つなぐる和綿プロジェクト展
～未来への実り、つながるカタチ～

第6回特別支援学校アート展
～のりもの～

30-34

[アウトリーチ展]



みんなでつなぐ WA ? | 古川町公民館（飛騨市）

多様な有りよう展 | OKBギャラリーおおがき（大垣市）

空想生物展 | ミュージアム中仙道（瑞浪市）

風の景 | じゅうろくてつめいギャラリー（岐阜市）

ある人の世界へ | 郡上八幡町内（郡上市）

35

舞台芸術の支援

36

連携事業

37-38

相談支援

39

ネットワーク

40

情報収集

41

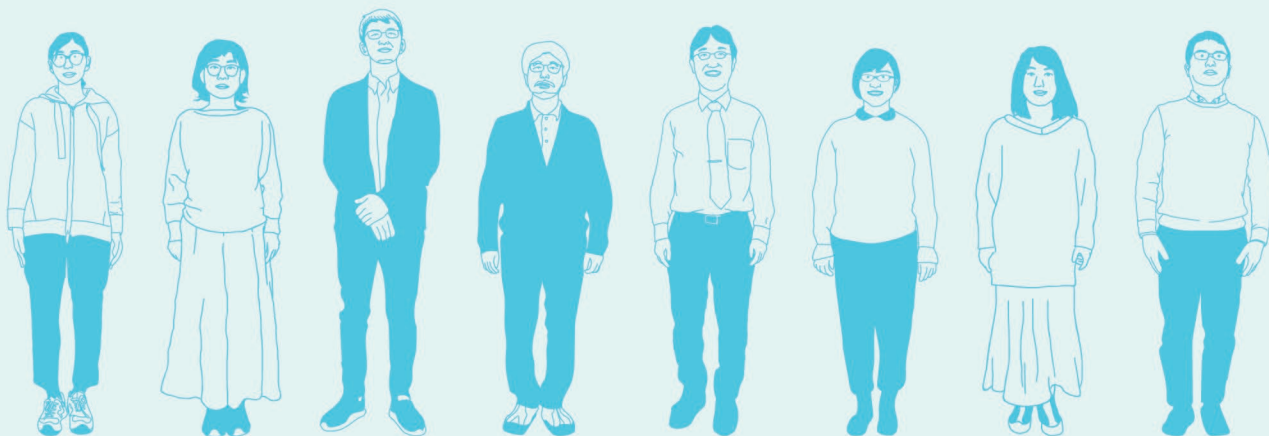
協力委員会・アドバイザー

42

あとがき



岐阜県障がい者芸術文化支援センター



「TASC ぎふ」^{タスク}とは

TASCぎふ(岐阜県障がい者芸術文化支援センター: Tomoni Art Support Center)は、ぎふ清流文化プラザを拠点として、絵画・造形などの美術分野や音楽・演劇などの舞台芸術分野に取り組む障がいのある人をサポートしています。

アートで、まじわる。

障がいのある人を支える人とともに、アートの力を活用して、社会とまじわる場をつくり、育て、障がいのある人の表現と社会参加の可能性を広げることを目指しています。

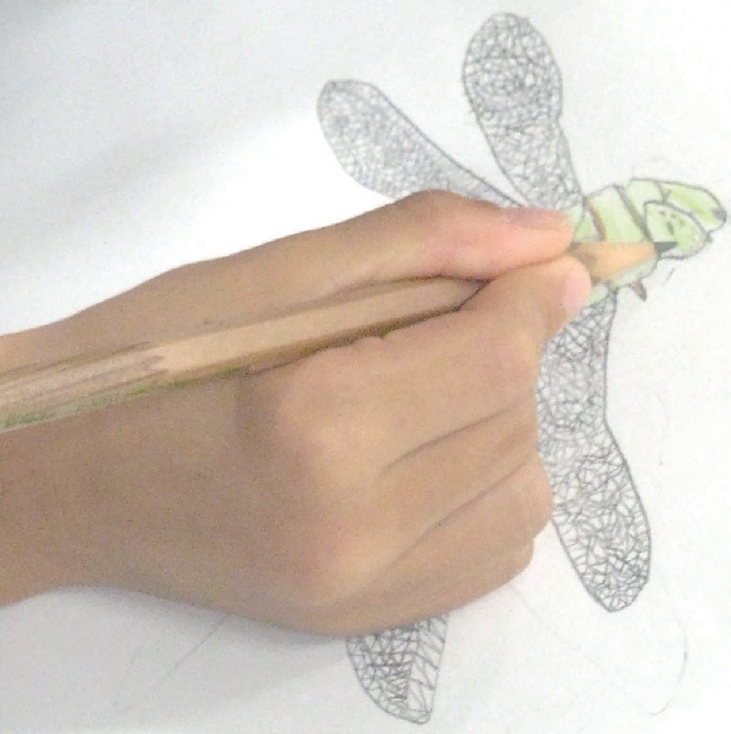
世界がこんな感じになったら、いいなあ



私たちの想いを表現(カタチに)してみました。世界にはいろんなみんなが、互いにまじわりながら、暮らしています。ときには、言葉がうまく伝わらなかったり、感じているものが違ったり、すれ違うこともあるかもしれません。

アート(表現)には、無限の自由があります。そのすれ違いを“まじわる”ことに変える力もあります。「アート」を通して、障がいのある人が社会と「まじわる」機会をみつけられたら…。

あまりキッチリとし過ぎず、少しスキマがあるくらいのまじわりが、お互いにゆとりが持てるのかもしれません。あなたも“まじわる”一歩を踏み出してみませんか？



取り組んでいること

「アートを通して、何ができるだろう？」

そんなことを、自分に問いかけながら、多彩な表現者たちの作品に触れています。

TASCぎふが取り組んでいることは、

障がいのある人と社会をつなぐ

「場」や「機会」をつくっていくこと。

皆さまからのご要望や相談を元に、

それらにお応えするかたちで

いろいろな事業を展開しています。

オープンアトリエ

自由に創作できる場と画材をご用意しています。
創作上の困り事などの相談もお受けしています。

出張アトリエ・ワークショップ

ぎふ清流文化プラザのオープンアトリエに、来られない方のために、施設・学校を中心に出張開催しています。また、各種ワークショップなども企画・開催しています。

tomoni アートサポーター

展覧会やワークショップ等の企画・運営、研修会への参加など、TASCぎふの活動に協力いただいています。

画材バンク

使わなくなった画材の寄付を受け、必要としている方にお渡ししています。

展覧会

ぎふ清流文化プラザや、岐阜県内各地で開催しています。各地域で企画・運営してくださる方や団体も募集しています。

舞台

県内外のアーティストが出演するコンサートを開催しています。障がいのある人が、鑑賞しやすい環境づくりも整えています。

研修会・実践ワークショップ

著作権や展覧会の開き方、ホールでの芸術鑑賞に関する研修、県外施設見学等を行っています。

アート利活用

冊子などの表紙やモノづくり、室内装飾への作品活用などにも取り組んでいます。



かたどる4つの輪は、tomoni(笑顔)・アート(赤)・清流(青)・暮らし & 環境(緑)が
絵柄や文字で表され、全体で、人と人のつながりを表しています。

アートは心の鏡。清流の水面に優しい笑顔がたくさん浮かぶ、そんな願いを込めて。

あゆみを止めずに 新たな試みにチャレンジ



新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、計画していた企画や展覧会の中止や延期を強いられるなか、「歩みを止めることなく、今だからこそできること、この環境下でもできることをやる」との想いから、WEBによる事業展開を手探りでスタートさせました。スピード感をもって事業展開できるように急速 tascgifu.com サイトを開設し、状況に応じた WEB 展開を進めました。

4月に予定されていた「オープンアトリエ作品展」はWEB上で急遽開催。また、オンラインを活用した企画として、複数名で作品を鑑賞して作品について語り合う「テレ美チャット」と題した対話型鑑賞会を開催するなど、実験的な取り組みにもチャレンジしました。さらに、疫病退散のシンボルとなっていたアマビエを題材にした公募企画「妖怪 アマビエ降臨展」を実施。アマビエのイラスト410点と鳴き声10点が県内外から寄せられました。



展覧会

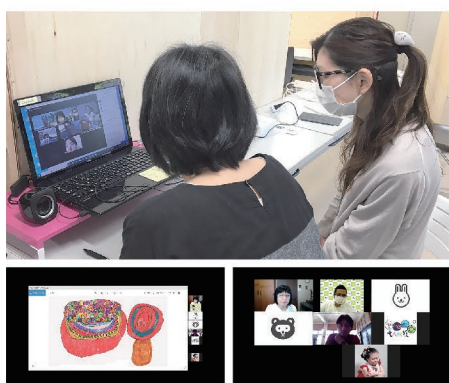
オープンアトリエ作品展



対話型鑑賞会

テレ美チャット

協力：MLA 研究所



展覧会

妖怪アマビエ降臨展





WEB

動画配信

正体不明

TASCぎふの作家たち

ひとりひとりの 創作の正体がみえてくる



MOVIE

緊急事態宣言下における事業のひとつとして岐阜県とともに開設したYouTubeチャンネル「清流の国ぎふ 自宅で楽しむ文化芸術」。TASCぎふでは、県内の作家を広く紹介するために、これまで企画展会場で上映していた作家の制作過程を記録した動画を公開し、県外からも反響がありました。また、本事業を機にTASCぎふでは独自のYouTubeチャンネルを開設し、その後の展覧会においても様々な動画企画にチャレンジしています。

コロナ禍における 緊急事業のふりかえり

「まじわる」ことをコンセプトに進めてきた事業の1つ1つが、コロナ禍において、「やってはいけないこと」になってしまいました。オープンアトリエもその1つです。誰もが自由に来場して、自由に創作する場であったのに、集まってはいけないという事態に。そこで新たに企画したオンラインでのオープンアトリエは、今まで接点のなかった方たちとの新しい出会いを生み出してくれました。また、なかなか進められなかったWEBを活用した事業も、この機会に大きく進めることができました。課題は山積みですが、視野を広げる機会にもなりました。

誰もが自由に参加できる

オープンアトリエ

会場：ぎふ清流文化プラザ 1F セミナー室



オンラインで参加

参加者とオンラインでつないで開催するオンラインオープンアトリエは、会場へ来られない方でも、それぞれが自宅や施設など遠方からでも気軽に参加できるため、継続して実施しています。これまで会場に来られなかった入院中の方などの参加もあり、参加者の可能性を広げました。



2020.5.29 →

新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言発令後、5月29日よりオンラインオープンアトリエを実施。宣言が解除された後の6月27日より今年度初のオープンアトリエを検温・手指消毒・飛沫防止などの感染対策を施したうえで、参加人数等も6名に制限を設けて開催しました。

2020年5月29日(金)～2021年3月15日(月)

計23回 会場10回/オンライン21回

※うち同時開催8回

会場参加

49名

オンライン参加

151名



開かれたアトリエって
なんだろう？



みんなと描く

絵を描くことは、自宅でもできることかもしれません。けれど、自分が普段生活しているところではない場所で絵を描くことは、画材が揃っていることの他にも理由があるのかもしれません。また、オンラインで参加することも、そこに大切な今をつなぐ何かがある

気がします。コロナ禍で、今年度の会場の定員は6名で行いました。おかげさまですぐに満席となりました。今後も多くの方が会場での参加を希望されることが予想されるので、できる限りたくさんの方にご参加いただける方法を模索していきます。

ワークショップ

○△□のハンコで 何ができるかな？

開催：2021年1月13日（水）

会場：ぎふ清流文化プラザ 1F セミナー室

講師：渡地 宏文 参加：4名

大中小3つのサイズの○△□スタンプを使って、絵画作品を作りました。同じスタンプを使っても、使う人によってその使い方は千差万別で、ランダムに押しながらイメージを膨らませていく人や具体的なイメージをしたり、幾何学模様をつくったり、絵を描くことが苦手な方でも、押すという行為ができれば、○△□というシンプルな形のみでも無限に表現の幅が広がっていく可能性を感じました。スタンプを作ることに時間がかかるので、スタンプの貸出を希望する意見もあり、今後検討していく必要があります。



音声による作品鑑賞

ラ美ット



対話型鑑賞会「テレ美チャット」(前述 5 ページ) を経て、音声のみで作品の魅力を伝えるということにトライした事業。アートサポーターから参加者を募り、研修を行った後、2020年10月開催「いろんなみんなの展覧会 種を、まく。」会場で収録を行いました。

講師：MLA 研究所 鬼頭孝佳・西田喜一

聴くことから世界を想像する

西田喜一 (寄稿)

うさぎのように耳をそばだて、耳を澄まそうという趣旨の「ラ美ット」は、コロナ禍でのオンライン作品鑑賞を探究しようと始まりました。「聴く」ということにこだわり、「聴く」という行為をこれほど深く考えたことは初めてのことだと思います。そして、「聴く」ということが、想像以上に難しい行為だとも気づかされました。人の話を注意深く聴いていたつもりでも、存外聴き逃すことは多いものです。それは、録音を通じて振り返ることによってわかりました。振り返りは、その時話した内容の確認だけでなく、その時思いつかなかった対話(作品理解)の可能性も教えてくれます。ラ美ットには、作品鑑賞のあり方がもっと楽しく、ある意味、自由なものだということを伝える可能性があるように思います。そのためには、ラジオ形式で取り上げる作品や機材の整備等はもちろん、リスナーとのつながりを作っていくことも模索していく必要があるでしょう。

HIDA ともにフェス × ART イベント
講演会・トークセッション

障がい者アートはすごい。

日常的な交流の場を生む

HIDAともにフェス × 実行委員会、地域活動支援センターやまびことの共同主催により、NPO 法人コーナス代表理事の白岩高子さんを迎えて、大阪の町屋で誰もが立ち寄れる日常的な交流の場を生み出すまでの経験談を講演していただきました。「アートを通じて、どのように取り組んできたか」「アートをどのように捉えてきたか」など貴重なお話を伺うことができました。講演の内容はTASCぎふのYouTube公式チャンネルからもご覧いただけます。



MOVIE



開催：2020年11月15日(日)

会場：高山市若者等活動事務所 村半

参加：会場 24 名、オンライン 6 名

講師：白岩高子

「障がいに応じたサポート付き公演を実施したい」が、「障がいの特性を学ぶ機会や環境を整備するノウハウがない」「福祉分野とつながる機会がない」といった課題を抱えている方に向けた講座。事前研修には、県内劇場関係者、福祉関係者、教育関係者、アートサポーターなど多様な方々に参加いただきました。今回の育成講座や障がいのある方に向けた劇場体験プログラムが岐阜県での開催は少なく、関心の高さを感じました。

実践研修、映画鑑賞会当日は、研修受講者が劇場スタッフとなり、客席や受付など来場者を迎える準備をしました。初めて来場して慣れない雰囲気戸惑い、受付から中に入れない方への対応として、数での威圧感を軽減するため受付の人数を減らしたり、スタッフがマスクをはずしたり、臨機応変に対応したことで、客席までは入ることができました。

劇場の楽しさを体験する場をつくる

国際障害者交流センタービッグ・アイ連携事業
劇場体験プログラム・劇場って楽しい！inぎふ
鑑賞支援コーディネーター育成講座
〔知的・発達障害編〕



事前研修

開催：2020年11月19日（木）

会場：ぎふ清流文化プラザ 2F 長良川ホール 参加：38名

講師：国際障害者交流センター ビッグ・アイ 鈴木京子
一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構 南部充央
岐阜県発達障害者支援センターのぞみ 発達相談員



実践研修／映画体験

開催：2021年1月16日（土）

会場：ぎふ清流文化プラザ 2F 長良川ホール

参加：実践研修受講者 19名／映画体験 94名



まぜこぜアートサファリ

tomoni アートサポータープレゼンツ企画展

展覧会を開くための研修

会期：2020年11月7日(土)～29日(日)

会場：ぎふ清流文化プラザ 1F 文化芸術県民ギャラリー

参加：県内外の福祉施設や造形教室、個人 約30組



作品募集

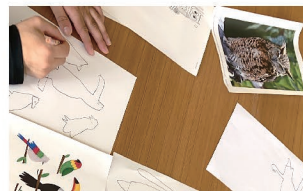


展覧会開催

みんなで楽しく展覧会をつくるということ

TASCぎふのアートサポーターが主体となり、障がいのある方の課題や社会状況を踏まえながら、企画から制作、展示までを行う体験研修。コロナ禍により、サポーターのミーティングもオンライン参加を取り入れながら実施しました。絵を描けない方や自己肯定感が低くなりがちの方、制作や発表の場が少なくなっている状況など様々な課題から、「持ち寄り型展覧会」という提案を元に、その課題解決のために何ができるかアイデアを出し合い、実行しました。身近にある

素材を使うこと、ちぎった紙などの素材提供やテンプレートを利用したぬり絵での参加など、それぞれができることで補いながら展覧会をつくることができました。制作者本人がコロナ禍で来場できないということもあり、発表の場の在り方や方法を話し合いました。検討課題も残りましたが、サポーターを介して、他の団体のつながりへと発展するケースも見られ、大きな可能性を持つ研修となりました。



〔参加者（敬称略）〕 放課後デイサービスアイカラース、
笑顔学園ステップベア、岡本亜美、海津市はばたきの仲間たち、
河合雛子、かにあきかず、国保範子、後藤秀徳、北川敬翔、
放課後等デイサービスげんきあっぶ、小林智典、
さとみ絵画造形教室、NPO法人さんしょうの会、シャイニーデイズ
ピースグリーン、各務原市福祉の里（つくし、たんぼぼ、さくら、
あすなろ、ぼぶら）、にじの芸術村、ハッピーテラス岐阜梅林教室、
NPO 法人はびりす、もりのせいかつ美術部、山本朱音、ゆうま、
夢工房 JIN 他

〔企画原案〕 原 正憲（NPO 法人はびりす・作業療法士）

〔アートサポーター〕 加藤泰子、金丸 寛、河合麻美、小枝福笑、
後藤理恵、小沼雅典、駒宮優子、坂本賢次、高野美保、田上 泉、
為房典江、田中修永、TERAMAKI、永井裕子、原田寛子、
八木裕史、水谷聡美、安田香実、山下ちはる、脇谷真理子 他

まぜこぜアートサファリを終えて | tomoni アートサポーターの感想



小沼雅典

みんなで展覧会を作り上げることの楽しさを感じました。参加させていただき感謝です。制作する人、それを展示設営する人がきっと笑顔でやれたから、とてもワクワク楽しい展覧会になりました！

安田香実

できる方法で参加する。特別な物は使わない。身近な物で制作する。なんて素敵なコンセプト！展示作業は、最高のワクワク感でした。色んな作品の個性がいい感じで融合し、ごちゃまぜだけで力強さを感じます！

駒宮優子

もりのせいかつ美術部の10月は「まぜこぜアートサファリ」の作品制作を頑張りました。針金でペリカンを作る人、山羊小屋に出現するヌートリアを思い出して描いている人、フィンチをちぎった和紙で表現している人、犬が好きな人は柴犬を、おふくちゃん、シロフクロウ、パンダ、人間もありで…。みんなそれぞれ「まぜこぜ」を楽しみました。作品完成までには至らなかった人もいましたがそれもOK。みんなで打ち上げをしました！

加藤泰子

意外な事に、今までであるようでも無かった企画展でしたね。やってみると、いろんな垣根を超えているのに、不思議に統一感があって面白かった。来年も是非！

水谷聡美

今回の展覧会は、コロナ禍だから出来た事だったと思います。こんな時だからこそ、人や社会とどうやって繋がれるのか…皆でアイデアを出し合い、素敵な作品を持ち寄り、楽しい企画でした！

永井裕子

あちこちから集まってきた素材が、誰かの作品に色を添えたり、作品同士が集まることで一つの世界になったり！どきどきと発見がいっぱいの企画展に参加できて楽しかったです。

障がい者のアート活動を支援・協力いただける方を広く募集しています

tomoni アートサポーター



tomoni アートサポーターとは、TASC ぎふとともに、障がい者のアート活動を支援する各事業の推進にご協力して下さる方のことです。活動に当たっては、サポーター養成研修において、必要な心構えを学んでい

ただきながら、サポート活動を通して、将来各地域や施設等で、アート活動を支え、担う人材として、活躍して下さることを期待しています。

お申し込み
問い合わせ

(公財) 岐阜県教育文化財団 岐阜県障がい者芸術文化支援センター (TASC ぎふ)
〒502-0841 岐阜市学園町3丁目42番地 ぎふ清流文化プラザ1F
TEL 058-233-5377 FAX 058-233-5811 MAIL tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp



会ったことがない人たちの、箱の中の出来事

会期：2020年10月8日(木)～25日(日)

会場：ぎふ清流文化プラザ1F 文化芸術県民ギャラリー

参加：豊住園（社会福祉法人瑞穂市社会福祉協議会 福祉作業所）+コココ（ワークショップユニット）+TERAMAKI（映像）

「TASCぎふコラボ展」は、県内アーティストと福祉施設利用者の皆さんが企画から制作、展示までを行うメイン企画です。アーティストと障がい者が、アートを通してコミュニケーションを図り、社会との関わりを築く場としてスタートしました。

第6回を迎えた今回は、東海地方で活動しているワークショップユニット・コココのお二人と瑞穂市の豊住園にご参加いただきました。

しかし、コロナ感染症という新たな条件が加わり、参加者が同じ時間と空間を共有しながら行ってきた企画そのものを見直す必要ができました。

そこで、コココのお二人より、対面せずに段ボール箱の中に造形をし合うという方法を提案していただき、参加者全員が不安の中、約4か月の取組みが始まりました。



TASCぎふコラボ展 vol.6

そうぞうの パッケージ

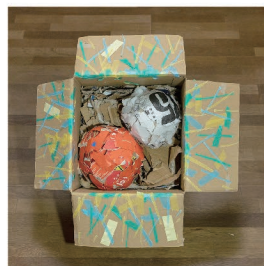
ワークショップユニット
コココ

福祉作業所
豊住園

伊藤と野呂の箱



平田と工藤の箱



1 週 目 —————> 2 週 目 —————> 3 週 目 —————> 4 週 目 —————>





作品を受けとり
作品を作りかえし
郵便局に持ち込んで送る。

そうして、生まれた
「そうぞうのパッケージ」



伊藤弘隆

野呂佑人

5 週 目

6 週 目

7 週 目

8 週 目



撮影・工藤恵美



平田湧樹

工藤恵美

豊住園にて 初顔合わせ



「取組みを終えて、今思うこと」

2020年12月14日（月） 豊住園にて

参加者（敬称略）：武藤由美（豊住園施設長）／四井陽子（豊住園スタッフ）／新川節子（豊住園スタッフ）

野呂祐人（コココ）／工藤恵美（コココ）／寺島真希（TERAMAKI）

進行：TASC ぎふ



はじめ

TASC：企画参加にあたり、コココさんへ一つだけリクエストをしました。それは、障がいのある方と対等の関係性を築いていただくこと。またコロナ感染症がちょうど重なったため、回数を減らすなどの対応をお願いしました。

野呂：これまでもワークショップを通して、時間と空間を共有しながらも、対面せずに共同制作してみたり、コトバ以外でのコミュニケーション方法を模索したりしていました。コロナがあったからではなく、個と個を大切にしながらコミュニケーションする方法を考えていたら、プレゼントを贈り合うイメージが社会状況ともかみ合っていて、名前も顔も知らない相手と箱を送り合いながら制作する方法を思いつきました。

豊住園：コロナで家にいることが多かった平田さんに自信をつけて欲しかった。伊藤さんは、色々なことに興味があるし、いつもはゴミ削減のために紙を破っていたけど、それを活かしたいと思い、二人に参加してもらおうと思いました。

やりとり

TASC：今回は、2組とも計8回のやりとりをしていたきましたが、どんなことを感じながら制作しましたか？

工藤：相手のことを知らないので、可能性が広がりそうな材料を入れて送りました。

豊住園：伊藤さんは、破るという行為を日常的に行っていたので、最初は破ることから始めました。表情はとても豊かになったようです。

野呂：最初、送った材料を何も使っていないちぎった紙がたくさん送られてきて、どうしようと思い、ずっと触っていました。悩みました。でも法則やルールを自分なりに解釈して、さらにそれを壊そう「こっちもやらなきゃ！」って気持ちになりました。紙を球状にしたのですが、割られることを想定して中にいくつか素材を入れました。

豊住園：そうか、付け足すっていう発想だったけど、壊してもよかったね。伊藤さんをもっと尊重したら、違う

展開もあったかもしれないね。少し誘導しすぎたかもしれないな…。絵の具がスムーズに出せるようにチューブに穴を空けて、伊藤さんに合わせて工夫しました。

寺島：平田さんは、材料が届いたらすぐに描き始めましたね。

工藤：やっていく内に何となくルールが出来上がってきたかも。平田さんは、こだわりがありそうだなって感じがしました。前まで入っていた絵がなくなっていたり、位置が変えられていたり、「納得がいかなかったのかな？」って。

寺島：そう、平田さんは粘土で作りかけてたものを丸めてやり直したり。

工藤：寺島さんの映像を見て、描いていた作品が入っていないことが分かりました。

豊住園：平田さんは絵が好きだし、楽しそうだった。でも最後の方、ちょっと行き詰っていたかも…。

工藤：そう、夏のイメージやイラストに限定されてきた感じがでてきて、変化しづらくなったかもしれません。

豊住園：最後、出し切った感じがな。でも彼にとって、好きな絵を好きなだけ描くことだけじゃなくて、どうしようかと考える機会になったし、そういう新しいことに気づけたことは一つの財産になったと思います。日常の中ではなかった経験です。

寺島：2組を見ていて、思いのズレが面白かった。思わず言いたくなりましたけど。そして、対等な感じがしました。作家対作家っていう感じ。

野呂：対面してしまうと作品を作るために支援者になってしまうと思って、片方がコントロールできないように、完全に50：50になるよう企画設定しました。

豊住園：何より施設の他の人にも刺激になったようでした。平田さんを覗いたり、知ってほしい、見てほしいと寺島さんが来たときなど握手を求めたり、私たちも発見がありました。

寺島：撮影の時、皆さんも張り切っていましたものね！（映像には他の利用者の皆さんも紹介された）

豊住園：そして郵便局の方も、段ボール箱を取りに来て

くれる時、嬉しそうでした。

TASC: 郵便局へ行って、自分で宛名を書いていましたものね。郵便局など地域の方に知っていただく機会になりましたね。でもそこまで影響があるとは！

野呂: 僕たちも、この機に（個人名が分からないよう）住所にコココという作家名を登録しましたよ。

初対面

TASC: 今回、最後の最後に対面しましたが、どうでしたか？

工藤: 一人の人に会いに行くという感じです。障がいのことは考えてませんでした。男性なのか女性なのかも。平田さんの豊かな表現から、ぼんやりイメージしていましたが…。

TASC: コココのお二人の方が緊張していましたね。

野呂: とても緊張しました。人生で初めてってくらい。

豊住園: えーっ！！ どうして？

野呂: モノを通して出来ていた関係性が急に遠く感じて…。それは、つないでいたものが変わったってことだと後で気づきましたが、帰りの車の中で、二人ももどかしくて、落ち込みました。

工藤: でも平田さんとの関係は、展覧会後会わなくても、程よくつながっている、心の片隅にいる感じがあります。作品は残らないが、作品を作った行為は残る。箱だけで止まっていなくて、ちゃんと存在していた。対面はもちろん嬉しかったです。

野呂: つまり、箱でのコミュニケーションの延長線上に、対面やコトバでのコミュニケーションがあると思ひ込んでいたために届かなさを感じたんだと。箱の中ではズレてもよかったのに、対面したらズレてはいけないと思ひ込んでしまった。

寺島: お互いがズレて伝わらなかったのが、面白い方向性になったんですものね。

野呂: そうそう、伊藤さんは一つに集中する方かなと思ってたけど、どちらかという色んなことに興味がある方だったんですね。イメージが少し違いました。

豊住園: 平田さんはもちろんですが、伊藤さんも何回か会えば分かるようになります。ぜひ、また会いに来てください。

TASC: 展覧会場で、平田さんが「今日は工藤さんいないですか？」と言われていました。

工藤: はい、とても嬉しかったです！

豊住園: ちゃんと、平田さんの中にも入っていますね。

自立について

寺島: 展覧会を見た方から、「何のためにこの展覧会を企画しているのか」、そして「どの部分が自立につながるのか」を教えていただきたいと言われました。

豊住園: 自立って何だろう？といつも考えます。でも平田さん、伊藤さんにとっての自立の仕方がある。平田さんは自分で悩みながら選ぶことができたし、伊藤さんも楽しんで行うことで、情緒の安定が見られた。2人とも、いい経験を得たと思います。

工藤: そうですね。自立に関わる根本のところにつながっていると思います。

TASC: 今回、それぞれが個としてつながりができただけでも、大きく言えば自立につながるのだと思います。

今後

野呂: 今回、時間や空間を切り離すことはチャレンジでしたが、逆にじっくり考えることができ、それらを同じにしないでいいと発見しました。施設同士で行うなど、この方法を他の所でもやってもらえたらと思っています。

工藤: アンケートに、「言語化できない思いを包み込んでくれたような…」という感想がありました。とても嬉しかったです。

TASC: こんなに心に留めてくれる人がいて良かったです。また「私もやりたい」という意見もありました。この方法なら、障がいとか年齢とか性別とか関係なく、誰でも行えますね。では皆さん、今回は本当にありがとうございました！





コミュニケーションと 社会とのつながり

対面を繰り返しながら顔の見える関係を築くことのみが社会とのつながりだという思い込みを覆されることになった今回の取組みは、「当たり前」を見直す機会にもなりました。逆転の発想とも言える今回は、まさに顔を見えなくすることで、相手を想像したり、思いやり、誤読を招きながら、言語化されない創造のコミュ

ニケーションが繰り返され広がられた。アートという媒介によって、コミュニケーションの新たな方法を実証できた今回の取組みは、コロナ感染症という変化せざるを得ない今を生きる私たちにとっても、コミュニケーションや社会とのつながりを考えるきっかけとなりました。



「TASC ぎふ コラボ展 vol.6 そうぞうのパッケージ」
ドキュメント映像がご覧いただけます
映像制作／TERAMAKI



MOVIE

ふしぎな制作体験 ハコモノトーク

会期：2021年10月11日（日）全4回

会場：ぎふ清流文化プラザ2F 楽屋1・2・3

参加者数：12組（各回3組）



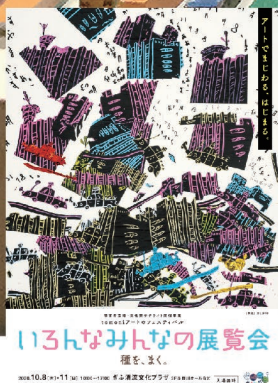
「いろんなみんなの展覧会 種を、まく。」の期間中に行った、「そうぞうのパッケージ」の取組みを基にした制作体験。参加者はリモートでつないだ3つの小さな部屋に分かれ、それぞれの顔が見えない状態で共同制作を行いました。

コココ・野呂さんの進行により、参加者は箱の中にフェルトシールを貼っていきました。箱は次の部屋へと tomoni アートサポーターらに運ばれ、またそれぞれにシールを貼っていきます。

別の部屋で参加した兄弟は、どこに誰が貼ったか、何となく分かったといいます。全く知らない者同士の展開とは、また違う反応が見られました。

顔をあわせずに
そうぞうを送る





いろんなみんなの展覧会 種を、まく。

会期：2020年10月8日（木）～11日（日）

会場：ぎふ清流文化プラザ 2F 長良川ホールなど

来場者数：750名



公募で集まった「種の絵」



TASC-1 グランプリ



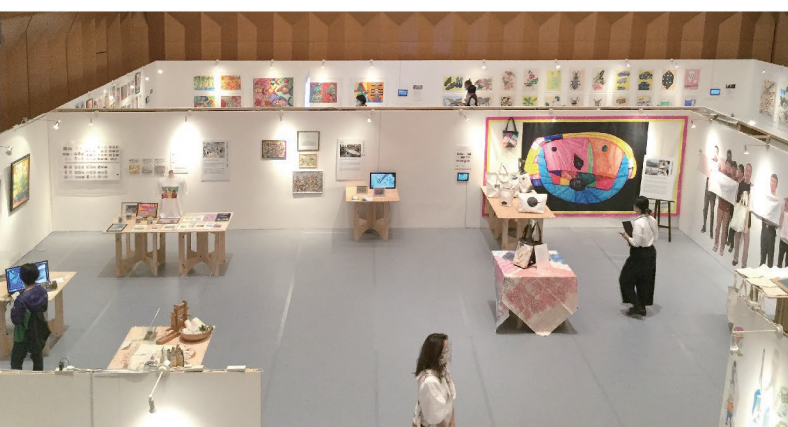
MOVIE



「種の絵」から生まれたアニメーション



MOVIE



アートでまじわる、
はじまる。



メイン会場の長良川ホールを中心に、県内作家の作品展示「変わらないというチカラ」や、アートと社会のまじわりが生んだ事例を紹介する「まじわるかたち」を軸に開催。「TASC-1 グランプリ」では、個性あふれる参加者が自由にパフォーマンスを披露してくれました。また、オンラインを活用した「オンライン鑑賞会」や「ラ美ット」。参加者同士が直接触れ合うことなく、作品を共作する「ハコモノトーク」。オンラインで収録したクロストークなど初めての試みも多く、やり方にそれぞれの課題はあったものの、新しい試みにチャレンジすることで得られることの大きさを実感することができました。鑑賞だけではなく色々な角度から楽しんでもいただける展覧会となりました。

私のいってん！

障がいがありながらも、素敵な作品を制作している県内の方を毎月1人紹介するコーナーです。作品そのものをぜひ、ご覧ください。そこに障がいはありません。

P

「私のいってん！」展示場所
ぎふ清流文化プラザ 1F エントランス

4月・5月・6月

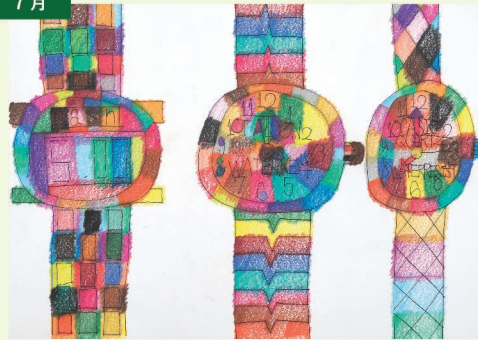


都築 一雄 TSUZUKI KAZUO

植物や昆虫、動物の図鑑の小さな写真や図を参考に、画面に大きく入れたり、変形したりして描いています。丹念に色鉛筆で塗り込められた、その色彩は鮮やかで明朗です。この他、身近にある物を直接見ながら描かれた物など、多様なモチーフを描きながら、色鉛筆で描き込む技法は一貫しており、その持続性は圧倒的です。



7月



安藤 維祐 ANDO TADASUKE

右利きのストロークの痕跡により、リズムに乗って描き進めている姿が浮かびます。その勢いのまま、囲まれた線を程よくはみ出して、違った色同士が混じり合い、全体で「揺れ」のようなものを感じさせます。特に数字や文字の線描に表れているように、とても几帳面な一面と、その「揺れ」のようなものが、画面上で同居しているところに面白さがあるように思います。



8月



大橋 克子 OHASHI KATSUKO



紙の余白を埋めるように、モチーフの周りに丸や三角、ハートなどの模様を描いています。それらを色ごとのパーツに分けるようにして、配色しています。遠くから見ると、違った模様にも見え、まるで着物の「小紋」のようです。さをり織りの配色にも通じているかもしれません。また、「ちゅーりっぷ」や人物は、とても可愛らしく、ほのぼのとした雰囲気は、作者の人柄に由来しているのでしょうか。

9月



ケンジ KENJI



「このヘリコプターは、軍事のためではなく、人々を癒すために必要だと確信した人物が生まれ変わった姿」という。現世での環境、スキル、性格などによって、天の国で生まれ変わったキャラクターたちという設定があるそうです。見る人には自由に見てほしいという願いと同時に、本人の意図は明確で、平和を願うやさしさが、画面を通して感じられます。

10月



YUKIKO

「かわいい」がキーワード。オリジナルのキャラクターやスイーツなどを描いています。その一方で、自分の内面を覗かせる作品も見受けられます。可愛らしい色使いも注目する点ですが、0.3ミリの極細のペンによる描画はとても繊細で明瞭。毎日描くことで、描くことが好きな気持ちと技を成長させています。



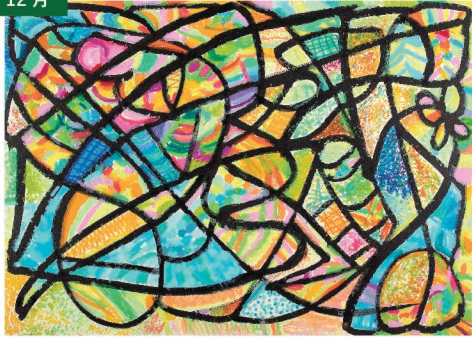
11月



TOMOKA

アクリル絵の具で、筆と指で描かれています。厚く塗られている部分があったり、別の紙に描いて切り貼りしてあったり、テクスチャーの工夫がされています。大きく描かれたチョウや人物が画面からはみ出さんばかりに配置されたこと、指の勢いそのままに渦を巻くような色彩が、見ている私たちにエネルギーを与えてくれます。

12月



加藤 由佳 KATO YUIKA

「臨床美術」の手法を使って、太い線で画面を分割した後、色彩や模様を入れています。ウキウキしながら制作した光景が目に見えます。視覚に障がいがあるということを全く感じさせない程、作品に力強さがあります。



2021年1月



安藤 佑真 ANDO YUMA

作品やタイトルは、本人の夢の中から出てくるインスピレーションを元に制作されるそうです。地球を救うヒーローの物語を書くことから表現活動が始まっていますが、絵画につけられた詩的なタイトルから安藤さんの壮大な物語の「ひとかけら」を連想します。



2月



小堀 慶大 KOBORI YOSHIHIRO

丁寧に保管してある消しゴムはんこ。その切れ味は抜群で、小堀さんが嬉々として制作している様子が目に浮かびます。手先が器用とは、正に彼のこと！ 図柄は、思い出の写真や図鑑などを参考に描かれます。工作の切れ味とは対照的に、朗らかな優しさが詰まっているように感じます。



3月



宮本 治樹 MIYAMOTO HARUKI



数字や英語などの文字とイラストをインスピレーションに基づいて組み合わせた独特の世界に、平和や差別のない社会への想いなど、熱いメッセージを込めているそうです。色の組み合わせやタッチは、軽やかで明るく、明るい未来や夢をカタチにして、自らも奮い立たせているのかもしれない。



オープンアトリエ作品展

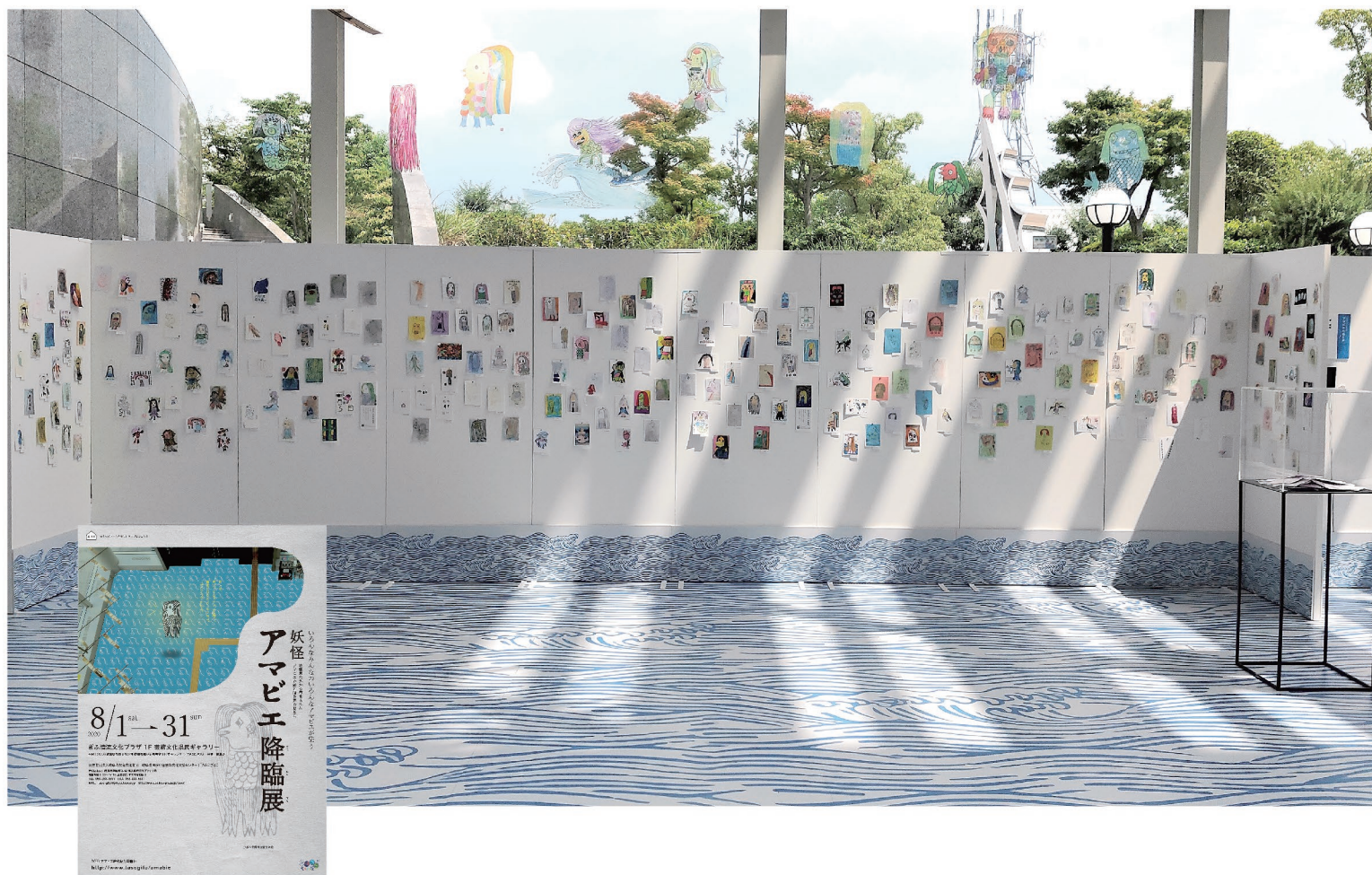
会期：2020年6月6日(土)～2020年7月26日(日)

会場：ぎふ清流文化プラザ 1F 文化芸術県民ギャラリー

誰もが自由に参加できる アトリエから生まれた展覧会

画材や制作の場を提供する「オープンアトリエ」という事業を行っています。2019年12月～2020年2月の間に12回のオープンアトリエが開催され、その期間に生まれた作品の展覧会を企画。コロナ禍で延期を余儀なくされましたが実施することができ、ご来場いただけない方に向けてもWEB上で作品を紹介しました。オープンアトリエでの制作の様子を撮影した動画も会場で上映したことによって、展示に奥行きが出たと感じられました。





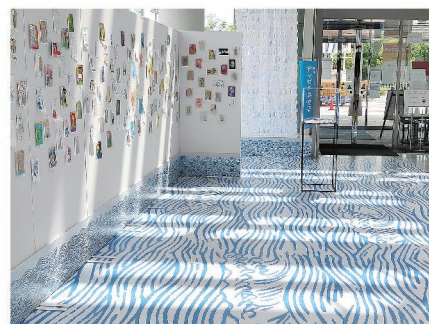
妖怪アマビエ降臨展

会期：2020年8月1日(土)～2020年9月23日(水)〔会期延長〕

会場：ぎふ清流文化プラザ 1F エントランス

疫病退散への想いと 創作の楽しさに溢れた展覧会

当初、予定になかった展覧会。新型コロナウイルスの感染が拡大するなか、この事態を一刻も早く終息させたい願いをこめた「アマビエ」をいたるところでみるようになりました。そこで、WEB上で展覧会を開催しようと急遽計画。イラスト以外に誰も聞いたことのないであろうアマビエの声も募集。想像力豊かな作品が県内外から400点以上集まりました。声を募集する独自性が注目され、全国の新聞やラジオやインターネットのニュースサイトでも取り上げられ、広く県外にも情報が伝わっていきました。





ぎふ清流文化プラザ 長良川ホールでの
芸術教室の様子（2020年8月2日）

はびりすプレゼンツ オンライン × オフライン みんなでつなぐ WA？

会期：2020年8月4日（火）～23日（日）

会場：ぎふ清流文化プラザ 1F 文化芸術県民ギャラリー
芸術教室講師：原正憲（NPO法人はびりす 作業療法士）

どこからでも誰とでも つながる可能性

（一財）岐阜県身体障害者福祉協会と共催し、NPO法人はびりすの協力により、2020年8月2日（日）に長良川ホールを会場にオンラインとオフラインを融合させた芸術教室を開催。色と色とが混ざり合いながら生まれた色の輪（色相環）が、様々な場所で作られ、その作品を一堂に介し、ギャラリーで展示しました。文字どおり、みんなでつなぐ展覧会となりました。今後、誰でも参加できるようにオンライン会議システムなどを使用したことのない方に対しても、どうアプローチし、環境や技術的なこと含めてフォローしていくか、考えていく課題が見つかりました。





第6回 tomoni つながる和綿プロジェクト展 ～未来への実り、つながるカタチ～

会期：2020年12月5日(土)～2021年1月11日(月・祝)

会場：ぎふ清流文化プラザ 1F 文化芸術県民ギャラリー

人と人、人とモノ、 モノとコトがつながる物語

過去4年間、県内福祉施設など多くの人々とともに育てた岐阜県産有機和綿を、県内企業の協力を経て、糸にし、布にするという初めてのチャレンジを行いました。また、岐阜県と友好交流協定を結んでいるリトアニアで栽培された貴重なリトアニアリネンと和綿との交流プロジェクトなど、和綿の特性を活かした様々なモノづくり、コトづくりを展示しました。「tomoni つながる和綿プロジェクト」では、栽培から製品づくりの工程の中で、障がいのある方々の得意な分野の能力を見つけ、活かし、新たな出会いと継続的な仕事に繋げるシステムづくりの構築を目指しています。





MOVIE

第6回 特別支援学校アート展

～のりもの～

会場：2021年1月23日(土)～2021年2月23日(火・祝)

会期：ぎふ清流文化プラザ 1F 文化芸術県民ギャラリー

アートによって生まれる 新しい交流の機会

特別支援学校の「乗り物」をテーマにしたアート作品 116 点を展示。高等学校連携企画として、高等学校と特別支援学校美術部の生徒がリモートでつながり共同制作するコラボレーション企画を実施し、アートを通して交流を深める機会となりました。展覧会は WEB 上でも公開し、会場に来られなかった方のために、360 度動画で会場の様子や作品を紹介しました。今後、テーマや展示のしかたなど、各学校の先生方と意見を交わして一緒につくり上げる展覧会に発展させていきたいです。



【県内特別支援学校 12 校と高等学校 1 校】

岐阜盲学校、長良特別支援学校、岐阜希望が丘特別支援学校、岐阜本巣特別支援学校、各務原特別支援学校、揖斐特別支援学校、西濃高等特別支援学校、海津特別支援学校、中濃特別支援学校、可茂特別支援学校、東濃特別支援学校、飛騨吉城特別支援学校、加茂高等学校

アウトリーチ展

岐阜県内の飛騨・西濃・東濃・岐阜・中濃の

5つのエリアにおいて

それぞれのエリアの特色にあわせて

企画も、展示内容も異なる展覧会を開催しました。

県内各地で開催することで

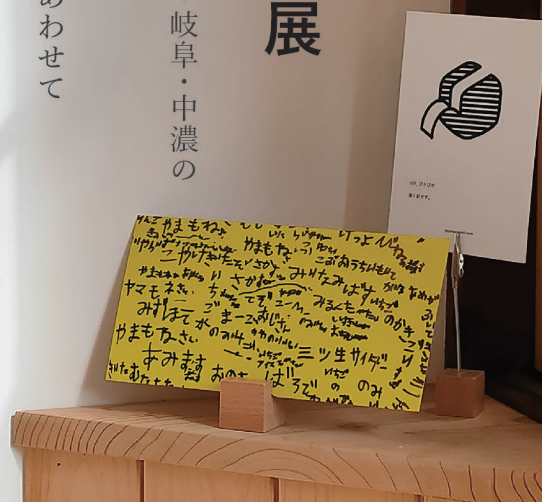
そこに暮らす人に

作品に触れていただく機会を生み出すとともに

新たな作家の発掘や

支援者の要望、悩みなどを直接伺うことで

より深く広い支援のカタチを目指しています。



アウトリーチ展

西濃

飛騨

はびりすプレゼンツ作品展 オンライン×オフライン
「みんなでつなぐWA？」

会場／会期

- ① 2020年8月26日(水)～9月9日(日)の内5日間／スローカフェはびりす(大垣市)
- ② 2020年9月13日(日)／古川町公民館(飛騨市)

ぎふ清流文化プラザのギャラリーで
展示した色相環やTシャツや、制作風景
などの写真を大垣市・飛騨市でも展示

しました。カフェや公民館での身近な
場所で展示を行うことは、関心のない方
の目にも触れることになりました。

それぞれの色と
個性が交わりあう



障害者芸術・文化祭サテライト開催事業

いろんなみんなの展覧会巡回展

「多ような有りよう展 2020」

会期：2020年11月25日（水）～12月20日（日）

会場：OKBギャラリーおおがき（大垣市）

来場者数：221名



様々な背景の
作家が集う展覧会



昨年度に引き続き、同会場で開催しました。今回は、「いろんなみんなの展覧会 種を、まく。」出展作家7名と、県内特別支援学校4校の生徒及びOKB大垣共立銀行関連作家3名の作品238点を展示。このギャラリーは駅前の銀行に併設され、最寄り駅である大垣駅はJR東海・樽見鉄道・養老鉄道と

接続する駅で不特定の方が来場されます。今後、地の利を活かして、周辺エリアの地域情報誌への掲載など、地域ごとにどのような広報戦略をたてていくかということも考えていきたいです。



障害者芸術・文化祭サテライト開催事業

いろんなみんなの展覧会巡回展

「空想生物展」

会期：2020年11月10日（火）～23日（月・祝）

会場：ミュージアム中仙道（瑞浪市）

来場者数：422名



人間の心に生きる
生物のようなもの



これまで企画してきた展覧会の作品の中には、「見たことのない不思議な生き物のような」作品が多くあり、そんな作品をたくさん見ていただき、人間の想像力の可能性を感じられる展覧会にしたいとの思いから企画しました。会場となったミュージアム中仙道は「日本の心の美術館」を掲げる

施設です。厳かな雰囲気にもまれた会場を活かせる作品選定や展示を心掛け、多くの方にご覧いただくことができました。ただし、広報に関しては地元である東濃エリアへの周知が行き届いていたとは言い切れず、地域との更なる連携や広報の展開方法に課題を残しました。



tomoni アウトリーチ展

「風の景」

会期：2021年1月16日（土）～31日（日）

会場：じゅうろくてつめいギャラリー（岐阜市）

来場者数：282名



昭和モダンが漂う
かつての銀行に
七人の風景が集う



MOVIE



岐阜県内で創作活動が続ける作家それぞれの描く「風景」が、レトロな会場の雰囲気になじみ溶け込んだ展示会となりました。会場内の演出として四季をイメージしたBGMを流し、懐かしさを感じさせる空間作りを心掛け、来場者にも心地よい時間を過ごしていただくことができました。また今回は

絵画のみではなく、写真や立体など、展示作品の幅もありました。岐阜市の繁華街にある会場には県外からの来場や、昭和モダンな建物が目にとまり、通りすがりの方が来場することもありました。今後は人の往来を活かした集客をさらに意識していく必要があります。



郡上八幡町屋越前屋



糸 CAFE



団子茶屋



OKB 大垣共立銀行八幡支店

tomoni アウトリーチ展

「ある人の世界へ」

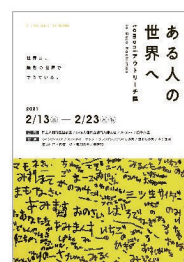
会期：2021 年 2 月 13 日（土）～ 23 日（火祝）

会場：郡上八幡町屋越前屋／ OKB 大垣共立銀行八幡支店

糸 CAFE／団子茶屋（郡上市）

来場者数：1783 名〔開期中の各会場の総計〕

世界は、
無数の世界で
できている。



郡上八幡の町中を回遊していただくことも目的として、郡上市内の福祉施設、郡上市在住在勤の作家を含めた県内作家の作品を 4 か所で展示。観光客が比較的少ない冬期での開催でしたが、県内遠方からも多数来場され、作品鑑賞だけでなく観光も楽しんでいただきました。観光や郡上の

地場産業であるシルクスクリーン印刷、食品サンプル、郡上踊りといった地域の特性を活かし、地域の方々が連携した今回の取組みは、来場者により楽しんでいただける展覧会のモデルとして、大きな可能性を感じました。

新型コロナウイルス感染症対策 文化芸術活動緊急支援事業

ぎふ清流文化プラザ“再始動”プロジェクト～tomon i～

県内で活躍するアーティストへの文化活動支援の一環として、障がいのある個人、団体アーティストも出演するコンサートを、ぎふ清流文化プラザ 長良川ホールで開催しました。予定していた演奏会等が中止や延期となった演奏家にとって、主催者側で新型コロナウイルス感染症対策を充分行った上で、コンサートを開催したことは、演奏家にとって安心感があり、観客にとっても座席に制限等がある状況でも楽しめる公演となりました。

桑原良恵 & 山中映也 ピアノコンサート



開催：2020年7月4日（土）

出演：桑原良恵、山中映也



MOVIE

ゆめぼっけライブ



開催：2020年7月18日（土）

出演：ゆめぼっけ



MOVIE

障がい者の国際ピアノコンクール等で優秀な成績を収めたピアニストお二人の演奏と、結成17年目に入りピアノや太鼓演奏など幅広い表現を続けるグループによるライブ演奏を披露していただきました。

音楽座ぎふプレゼンツ

第5回清流ふれ愛コンサート

おとらくぎ
NPO法人音楽座ぎふが障がい者週間（12月3日～9日）にあわせて毎年開催している「障がいのあるなしに関わらず楽しめるコンサート」です。今回は視覚に障がいのあるピアニストやボーカル・ギタリストが出演し、コロナ禍で例年のような発表の機会がない状況が続いている中、パフォーマンスを披露されました。



開催：2020年12月6日（日）

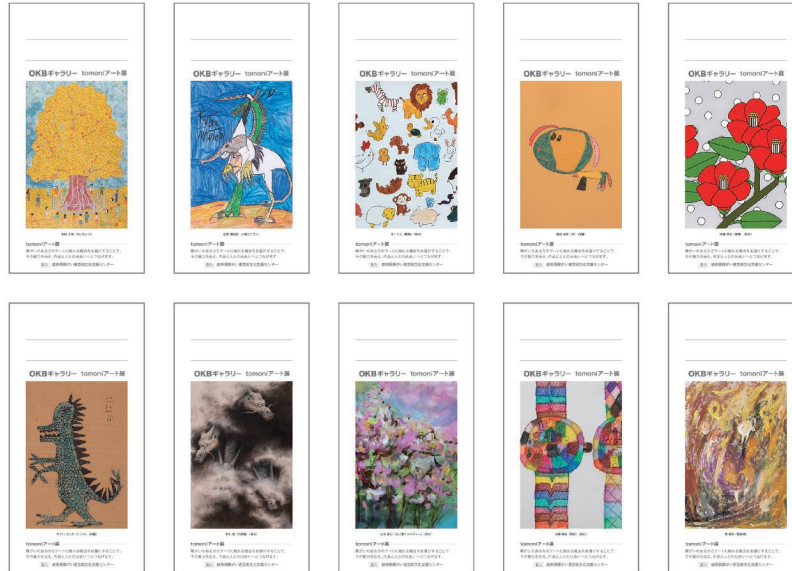
べんぎんむら
出演：片銀村（野村宏一と山口益人のフォーク・デュオ）
原 好幸（ピアニスト）



MOVIE

作品発表の新たな可能性

OKB 大垣共立銀行 連携事業 | 現金封筒の作品掲載



令和2年度採用件数

24 件

(2021 年 3 月 5 日 現在)

(公財) 岐阜県教育文化財団と OKB 大垣共立銀行が連携協定を結び、企業にスポンサードしていただくことで、大垣共立銀行の現金封筒に、TASC ぎふから紹介した作品 10 点を使用し、そこで発生した作品利用料を作家に還元する事業が始まりました。本事業は来年度も継続して行います。

tomoni cafe (トモニ カフェ) 連携事業



上：カフェ入口の装飾
下：製品の販売棚

ランチョンペーパー
マスク入れ、箸袋
コーヒーチケット

これまでも TASC ぎふの拠点でもあるぎふ清流文化プラザ 1 階にある tomoni cafe と連携し、店の装飾や備品などに作品を二次利用することに取り組んできました。今年度は、コーヒーチケットやメニュー、お客様からの要望により作成した簡易マスク入れなど、様々なアイテムに作品を活用してきました。また、福祉施設や個人の製作した商品の販売にも取り組んでいます。

時流にともなって変わるニーズ

障がい者の芸術文化活動に関する相談窓口（直接来所、電話、メール、FAX）を設置し、作家本人やご家族、支援者からの各種相談に対応しています。また、アドバイザーを設置し、専門性の高い多様な案件にも対応できる体制づくりを整えるとともに、全国にある支援センターとも連携し、課題解決に取り組んでいます。

令和2年度

相談件数 65件

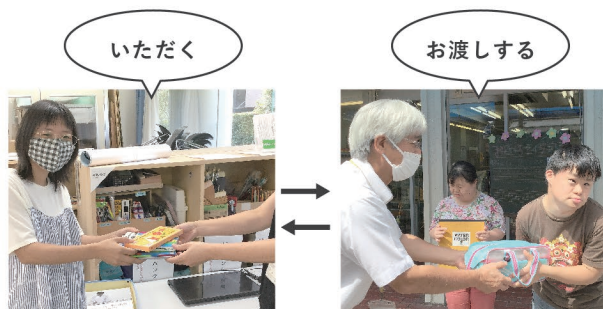
（2021年3月5日現在）

相談分類 令和2年度		令和元年度	平成30年度
作者の権利保護に関する相談	A. 創作活動に関する相談	13	12
	B. 展示に関する相談	16	6
	C. 就業機会に関する相談	1	2
	D. 取材に関する相談	2	2
	E-a. 作品の出展	3	2
	E-b. 作品の寄贈・寄託	0	0
	E-c. 作品の販売	5	2
	E-d. 作品の二次利用	9	1
	E-e. 作者・作品の取扱い	2	0
	E-f. 成年後見人制度利用	0	0
F. その他		14	30
			31

昨今「作品の二次利用」に関連した相談が増えてきています。作品を活用した製品の販売に対する関心の増加に伴い、販売に際しての作品利用の契約書の作成や作品の著作権に関する問題など作者の権利保護が課題となってきています。TASCぎふでも、参考事例の収集やアドバイザーと協力し、課題解決に向け取り組んでいます。

画材バンク

不要となった画材の寄付を受付け、アート活動に取り組む障がいのある方や福祉事業所に活用していただいています。ご提供いただく方の思いが誰かの創作活動に結びつく繋がりを目指しています。



相談の事例

展示方法についてアドバイスが欲しい。

依頼者	地域自立支援協議会職員
相談内容	地元の文化施設において地域の福祉施設の作品を集めた展覧会を開催したいので、展示方法についてアドバイスが欲しい。
対応	TASC ぎふ職員を展示会場に派遣し、作品に直接画びょうを刺さない展示方法をお伝えするなど、作品の取り扱い方法やレイアウトに関するアドバイスをしながら主催者とともに展示作業を行いました。
補足	TASC ぎふでは、アウトリーチ展や巡回展など県下全域で展覧会を行っている他、各地域の方々が企画・開催する展覧会に対して要望に応じて展示用品等の貸出や展示アドバイスをを行っています。

作品を見てほしい。作品の保管の仕方を教えてほしい。

依頼者	家族
相談内容	小さいころから絵を描き始めた。作品を見てほしい。毎日数枚ずつ描いているため点数が多く、テーマも変化してきている。作品の保管方法についてアドバイスしてほしい。まだ作品を皆さんに見てもらう機会はない。
対応	保管については、家族が制作日を記入してファイリングしていることによって作品のテーマが変化してきていることが分かりやすいので、このまま継続するようアドバイスし、月に一度作家を紹介する「私のいってん!」への展示を進めました。
補足	「私のいってん!」では、岐阜県にゆかりのある多彩な表現者たちの作品を毎月お一人紹介しています。福祉施設やご家族等の情報提供により発掘した方、発表経験のない方などを取り上げています。発表したい方や推薦したい方はぜひご連絡ください。

事業所でつくった自分の作品を返してほしい。

依頼者	作家
相談内容	事業所でつくった作品を返してほしいと言ったが、返してもらえない。
対応	対応① 利用する事業所で制作した作品について、著作権及び所有権が作家本人にあるか、解決方法を含めてリーガルアドバイザーに相談しました。作家と事業所の間に、作品に関する契約がないこともあり、弁護士に相談するなど法的な解決が望ましいとのこと。今回は無料で3回まで相談※注1できる「法テラス法律相談事務所」を紹介しました。 対応② 依頼者より、他の相談先も教えてほしいとのことから、東海・北陸ブロック広域センターにも相談し、県運営適正化委員会※注2をご紹介します。 ※注1 無料法律相談を受けるには、条件があります。詳しくは「法テラス」HP等でご確認ください。 ※注2 福祉サービスの利用者から困りごとの相談や苦情を受け付け、これを解決する苦情解決の仕組みがあり、相談窓口が設けられています。
補足	相談内容によっては、TASCぎふで直接解決することができない場合があります。必要に応じて他の機関をご紹介しますので、「どこに相談すればよいかわからない」場合はご相談ください。

連携による作品発表の機会

TASCぎふは岐阜県の支援センターとして、厚生労働省が進める障害者芸術文化活動普及支援事業の東海・北陸ブロックに所属しています。ブロック内で連携した展覧会への岐阜県作家の出展支援や、県内施設との連携事業をはじめ、県内外への視察も行っています。

作品発表

【おてらで meets フェスティバル 2nd】

会期：2020年10月23日（金）～25日（日） 会場：長善寺／法源寺（愛知県名古屋市）

出展作家：かていよしお（あしたの会家庭学校所属）

【アール・ブリュット - 日本人と自然 - in 東海・北陸】

会期：2020年11月28日（土）～12月13日（日） 会場：ミュゼ雪小町（新潟県上越市）

出展作家：升山和明（サンフレンド所属）

【あいちアール・ブリュットサテライト展】

会期：2021年2月9日（火）～14日（日） 会場：豊川市桜ヶ丘ミュージアム（愛知県豊川市）

出展作家：田口翔大

【アートって何なん？—やまなみ工房からの返信—】

会期：2021年3月6日（土）～5月9日（日） 会場：南砺市立福光美術館（富山県南砺市）

出展作家：桑原拓也（いぶき福祉会サテライト所属）、棚橋宏太（ワークサポートみやこ所属）、升山和明（サンフレンド所属）

【「障がい者アート」と呼んだ途端に見えなくなるもの展】

会期：2021年3月19日（金）～23日（火） 会場：石川県立美術館 広坂別館 多目的室（石川県金沢市）

出展作家：田藤哲也（世界ちゃんとモゲル丸先生の元気な仲間たち所属）

【令和2年度 可児市文化創造センター ala 連携事業】

ala×TASC ぎふ 連携 いろんなみんなのアート展

会期：2020年10月14日（水）～2021年3月31日（水） 会場：可児市文化創造センター ala（岐阜県可児市）

出展作家：【第1期 10/14～1/8】不破里子（ふれ愛の家所属） 【第2期 1/8～3/31】カッチン（第一陶芸学園所属）



視察

【ボーダレスエリア 近江八幡芸術祭「ちかくのまち」】（滋賀県近江八幡市）

【ヘラルボニー 名古屋店】（愛知県名古屋市）

【Dr. ギスラン博物館 所蔵作品展】（石川県金沢市）

【誰でも創作体験 まぜこぜわーくショップ】（富山県高岡市）

【アール・ブリュット —日本人と自然— in 東海・北陸】（新潟県上越市）

【第8回天才アート展 2020】（京都府京都市）

【コレクション展みずのきの演習】（京都府亀岡市）

【さん・さんアート展 in 十六銀行】（岐阜県岐阜市）

【「生きる」を彩る分厚い手仕事展】（岐阜県岐阜市）

【舞台手話通訳付き公演 凛然グッドバイ】（愛知県豊橋市）

【あいちアール・ブリュット展】（愛知県名古屋市）

など

作品の二次利用に関する作家調査

2020年5月に、これまで関連した美術分野の制作者約100人に対して、作品の二次利用についてのアンケート調査を行いました。その結果、約50人の二次利用希望者がありました。TASC ぎふでは、作品のアーカイブとしてまとめた資料を作り、作品を利用したい企業や大学などに紹介する取り組みをはじめました。実際にいくつかの企業、大学等による作品利用へとつながっています。

芸術文化活動に関する現状アンケート

TASC ぎふが活動を開始した2018年度にもアンケート調査を行いましたが、本年度は、より広い分野の調査、特に美術分野以外の取組みの実態や要望を把握するため、各自治体や福祉施設などへ、約1350件へのアンケートを取りました。今後は、アンケートの結果を元に、順次聞き取り調査や現地調査に伺い、今後の支援や活動へとつなげていく予定です。

芸術文化活動に関する現状アンケート調査結果〔福祉施設 編〕

対象 1241施設 回答数 555施設（回答率44.7%）

あなたの施設では、障がい者の芸術文化活動などを行っていますか？

はい 31.9% いいえ 68.1%

その活動で重視していることは？〔複数回答可〕

（「はい」と回答した177に対して 上位3項目抜粋）

- ① 自由に行うこと・・・134
- ② 創作を継続すること・・・77
- ③ 仕事につなげること・・・24

現在の課題や必要としていることは？〔複数回答可〕

（「いいえ」と回答した376事業所に対して 上位3項目抜粋）

- ① 指導者の確保・・・214
- ② 活動時間について・・・170
- ③ 活動環境について・・・168

今後、芸術活動を行ってみたいですか？〔複数回答可〕

- ① 積極的に行いたい・・・82
- ② 発表の機会があれば検討したい・・・61
- ③ 興味はある・・・178
- ④ 予定はない・・・229
- ⑤ その他・・・19

施設からのコメント（抜粋）

・今年1年間の実績で、施設内の評価が、単なる遊びや余暇活動からアート活動として位置づけることができました。

・A型事業所としては、生産作業が主となり、文化活動を行うことは難しい状況です。しかし、利用者さんにとって余暇や社会的な活動はQOL（生活の質）を高めるうえでも大切であり、仕事や休日の過ごし方としてセンターの存在が多くの方々に知っていただけるよう広がっていくと良いと思います。

▶ この他、重度重複障がい者施設から、重度障がいの方でもできる活動がないかとの問いかけがありました。

2018年9月に実施したアンケート調査【調査数 813件、回答数 261件（回答率32%）】と比較して、数値的には大きな変化は見られませんでした。しかし、施設からのコメントを見てみると、芸術文化活動の意義の理解が進んでおり、研修などの情報を得たい、支援センターへ大きな期待を持っているといった意見をいただきました。

活動内容については、美術（131）、音楽（97）、生活文化（63）が多く、舞踊（16）や芸能（14）、演劇（6）や伝統芸能（1）、の分野は少ないと言えます。しかし、発表の機会があれば、さらに認知され、他の事業所へ広がる可能性があります。また、今回オンライン会議システムについても調査しましたが、51%の事業所などが既に使用しており、研修などもオンラインで行ってほしいとの意見がありました。

協力委員会の設置

岐阜県障がい者芸術文化支援センターの事業計画や進捗状況を確認して事業運営に必要な意見をいただくため、様々な分野において活躍する県内の有識者に、協力委員を務めていただいています。

顧問

吉田 豊 岐阜県芸術文化会議 名誉顧問

委員

岡本 敏美 一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会 会長
田口 道治 一般社団法人岐阜県知的障害者支援協会 会長
中村 剛 特定非営利活動法人岐阜県精神保健福祉会連合会 顧問
長谷川 典彦 特定非営利活動法人岐阜県難病団体連絡協議会 理事長
和田 俊人 岐阜県特別支援学校校長会 会長
日比野 克彦 岐阜県美術館 館長
高橋 秀治 岐阜県現代陶芸美術館 館長
鈴木 良春 一般社団法人岐阜県経済同友会 筆頭代表幹事
森脇 久隆 国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学 学長
(敬称略)



協力委員会の開催

会 期：2020年10月9日（金）13:30～15:00

会 場：ぎふ清流文化プラザ 4F 第3練習室

出席者：委員8名（うち代理出席2名）、オブザーバー3名

障がい者の芸術文化活動の振興を図ることを目的に設置された岐阜県障がい者芸術文化支援センターの事業活動を支援するため、協力委員会を設置しています。今回は令和2年度事業の実施状況について意見をいただきました。

アドバイザーの委嘱

岐阜県障がい者芸術文化支援センターが障がい者の芸術文化活動を専門的見地から支援を行う際に必要に応じて、美術や舞台等の専門家から助言等をいただくため、アドバイザーを委嘱しています。

小島 紀夫 TASC ぎふ舞台芸術アドバイザー
古田 菜穂子 TASC ぎふアート活用アドバイザー
曾我部 弘樹 TASC ぎふ障がい者 tomoni トータルアドバイザー
松井 義孝 TASC ぎふリーガルアドバイザー

あとがき

今年度直面した一番の課題は、なんといってもコロナ禍において、いかに創意と工夫をもって事業を進めていくか、ではなかったでしょうか。

年度が変わった4月になっても世界中が新型コロナウイルス感染症におびえる日常が続きました。ステイホーム、ソーシャルディスタンス、3密の回避といった、人と交わることにネガティブな言葉がメディアを通して広まり、芸術文化に関わる舞台やコンサート、展覧会が中止や延期を強いられました。TASC ぎふの「障がいのある人や支える人と共に、アートの力を通して、社会と交わる場作りをする活動」も全否定されたような思いになりました。

しかし、この状況を受け入れながら少しずつですが、「日常の何が違って、何が変わらないのか」を整理することで“人の繋がり”の大切さを改めて気付きました。今までの活動の歩みを止めることなく、いかにリスク回避し、コロナ禍でも交われる方法やより多くの人に発信する方法など、スタッフ一同知恵を出し合いました。新たな取り組みとしてリモートによるWEB活用事業を手探りで

チャレンジしました。昨年度より作業量が増えましたが、普段から様々な事情で来場できない方を含む多くの方から「遠くにいても『今』を共有することができ、楽しく参加できた」との嬉しい声を聞くことができました。さらに、鑑賞支援コーディネーター育成研修を実施したことで、舞台表現活動支援の次の方向性が明らかになってきたことや、アウトリーチ事業を展開する中で当該地域の支援者や企業が中心となって展開できる前向きな動きがあることが分かってきました。

2024年に岐阜県で開催される第39回国民文化祭並びに第24回全国障害者芸術・文化祭に向け、県民一人ひとりが障がい者の芸術文化活動への参加を通じて、障がい者のより良い生活と地域共生社会の実現に向けての認識を持って取り組むためにも、この1年間の取り組みを活かして県内市町村、地域の支援者や企業との連携を具体化していきたいと考えております。今後とも皆様のご協力とご支援をよろしくお願いします。

岐阜県障がい者芸術文化支援センター業務総括
土屋 明之

企画・編集・発行

(公財) 岐阜県教育文化財団 岐阜県障がい者芸術文化支援センター (TASC ぎふ)

〒502-0841 岐阜県岐阜市学園町3-42 ぎふ清流文化プラザ1F

TEL 058-233-5377

FAX 058-233-5811

MAIL tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp

WEB <https://www.tascgifu.com>

Instagram

tasc_gifu

MOVIE

TASC ぎふ YouTube

検索

発行責任者：土屋明之（岐阜県障がい者芸術文化支援センター業務総括）

写真：TASC ぎふ、W.Edition、寺島真希／デザイン：boum

表紙画：「かお」カッチン（第一陶技学園 所属）

裏表紙画：「お花畑B」不破里子（ふれ愛の家 所属）



「お花畑 B」 不破里子



岐阜県障がい者芸術文化支援センター
tomoni アートサポートセンター